

令和6年能登半島地震に関連する海底地形調査

- ・令和6（2024）年5月に能登半島北方海域における地形変化の有無を確認するため、測量船「天洋」による海底地形調査を実施。
- ・過去のデータとの比較から、能登半島北部の活断層帯における海底隆起を確認。

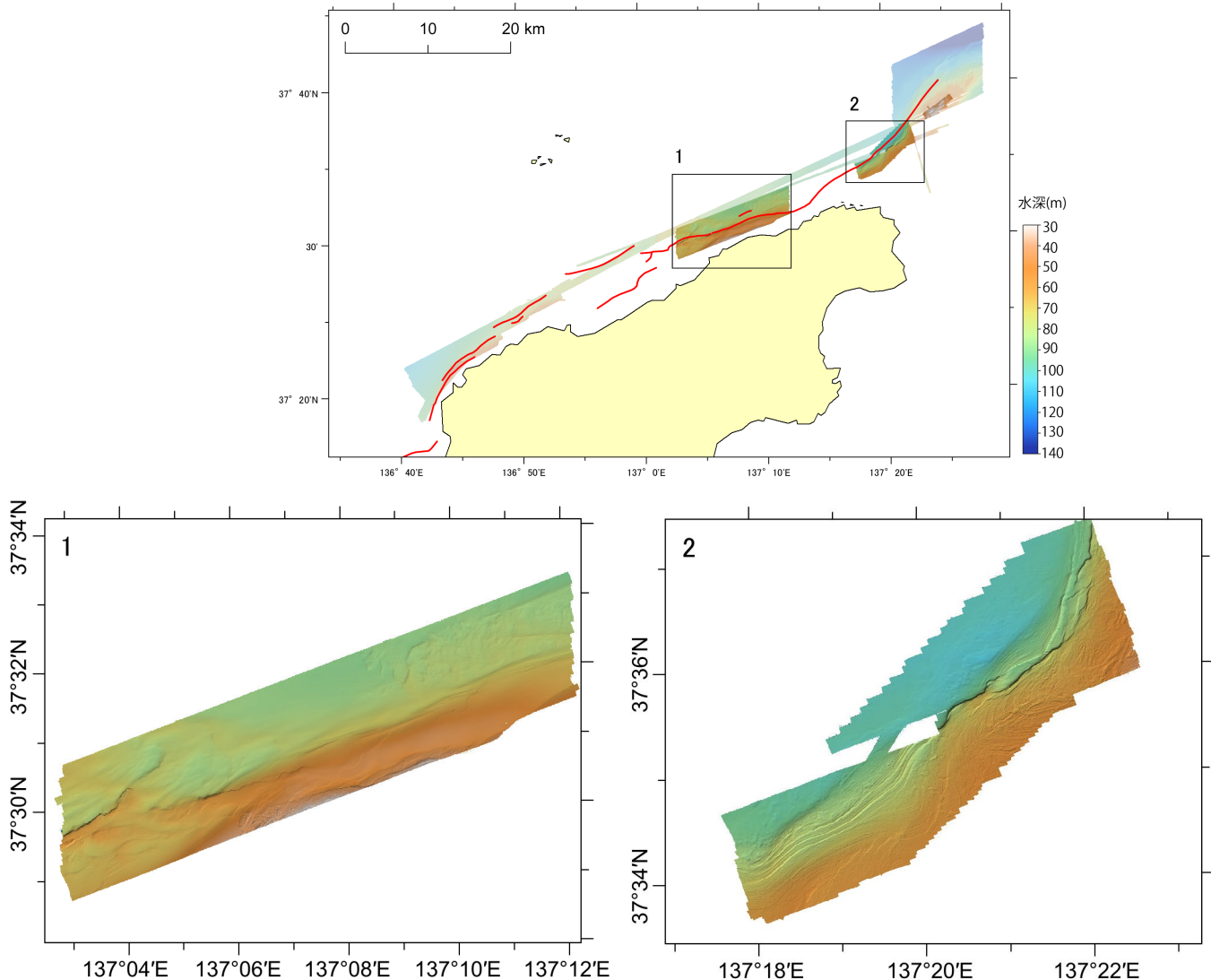


図1 測量船「天洋」による海底地形調査結果（四角1及び2の濃色部分）
 上段は広域図、下段は拡大図。赤線は岡村ほか（2024）による最近約2万年間に活動している活断層のトレース。海底地形図は手前側から光を当てている（以後の図も同様）。

【参考文献】

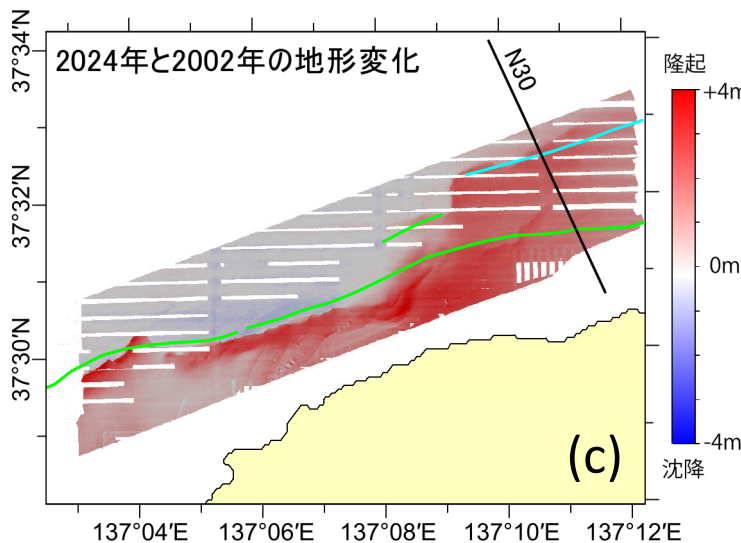
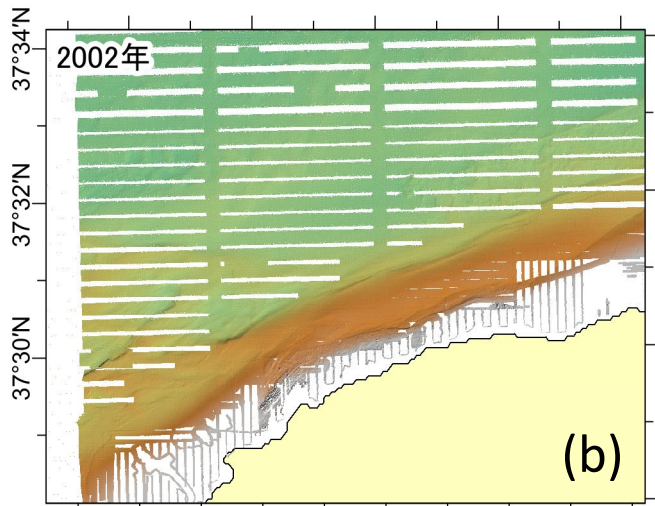
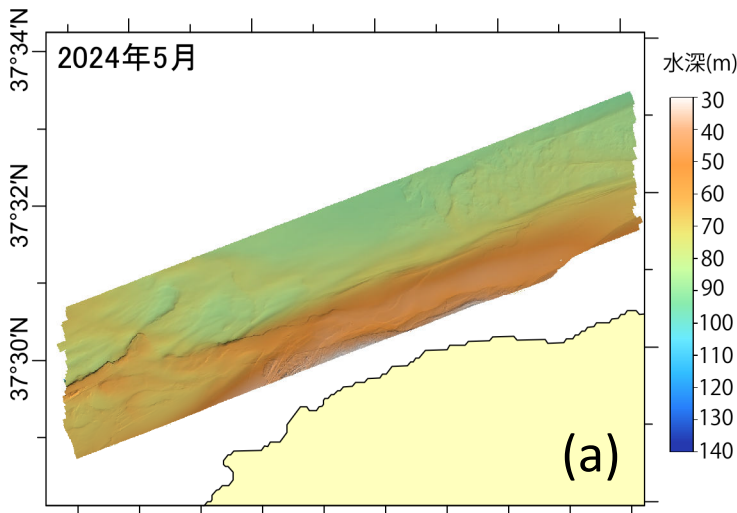
井上卓彦・岡村行信（2010）能登半島北部周辺20万分の1海域地質図及び説明書，海陸シームレス地質情報集「能登半島北部沿岸域」

岡村行信・佐脇泰典・内出崇彦・宮下由香里（2024）能登半島北部沿岸域の構造図と令和6年（2024年）能登半島地震の余震分布，<https://www.gsj.jp/hazards/earthquake/noto2024/noto2024-05.html>

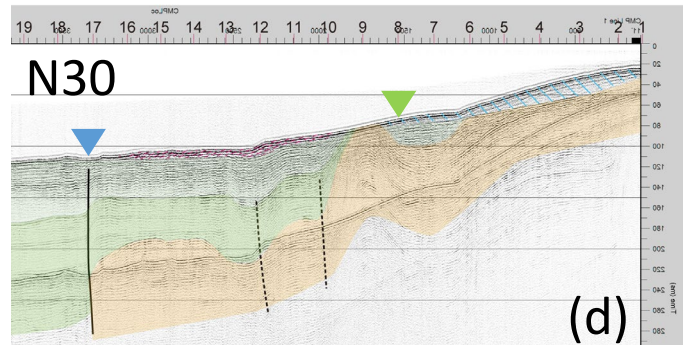
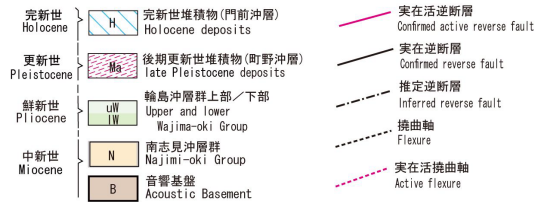
【謝辞】

産業技術総合研究所には2008年取得の海底地形データをご提供いただきました。記して感謝します。

領域 1



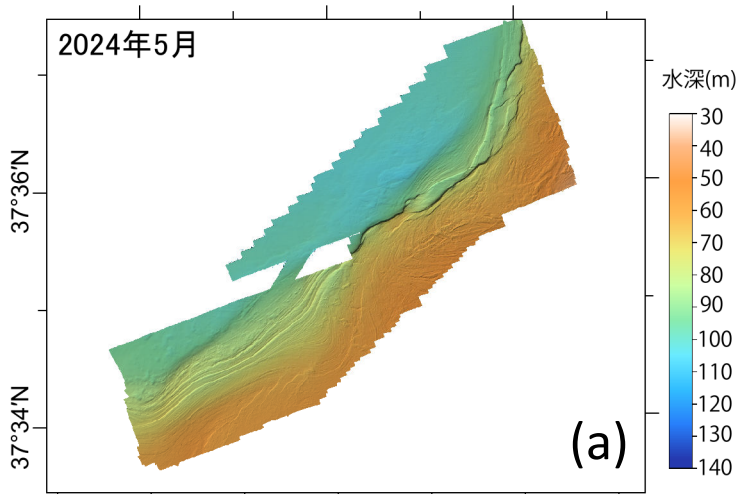
- 最大 3 ~ 4 m の隆起を確認。
- 最近約 2 万年間での活動が明確でない断層が活動したことを示唆。



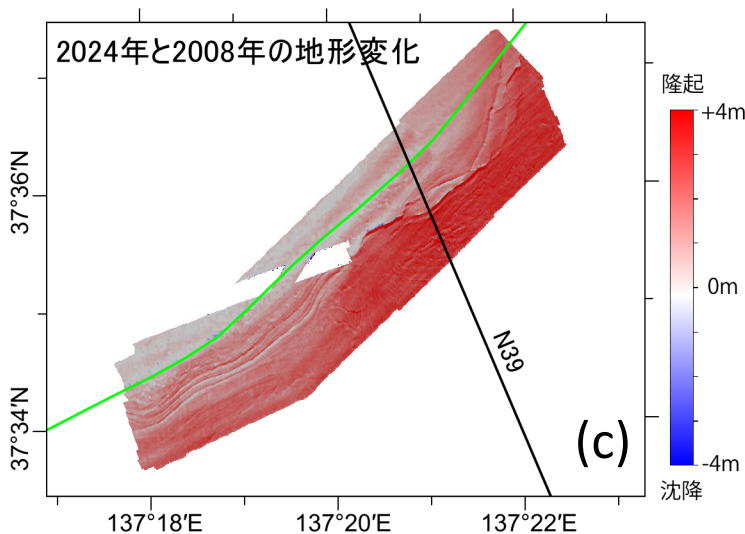
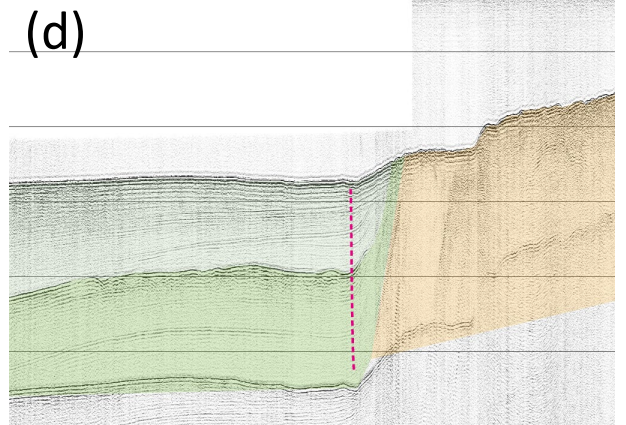
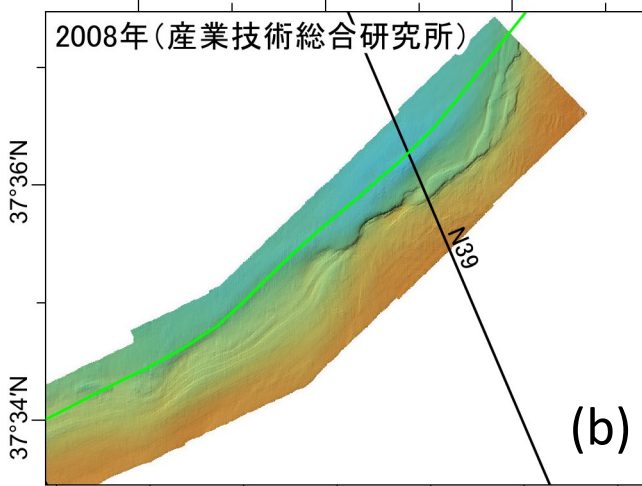
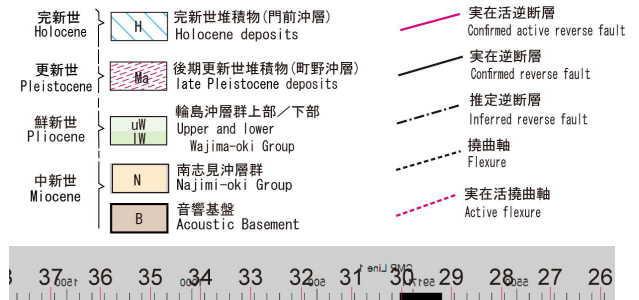
井上・岡村 (2010) を改変

- (a) 2024年に海上保安庁によって取得された海底地形。
- (b) 2002年に海上保安庁によって取得された海底地形。
- (c) 2024年と2002年の地形差分。緑色の線は岡村ほか (2024) の最近約 2 万年間に活動している活断層、水色の線は第四紀に活動している可能性のある断層。黒線は産業技術総合研究所によるブーマー調査測線 (井上・岡村, 2010)。
- (d) (c)に示したブーマー調査測線での反射断面 (井上・岡村, 2010を改変)。(c)中の水色と緑色の断層の位置を同色の三角形で示してある。横幅は、(c)における線の位置と一致しない。

領域 2



・最大3～4mの隆起を確認。



- (a) 2024年に海上保安庁によって取得された海底地形。
- (b) 2008年に産業技術総合研究所によって取得された海底地形。緑色の線は岡村ほか(2024)の最近約2万年間に活動している活断層。黒線は産業技術総合研究所によるブーマー調査測線(井上・岡村, 2010)。
- (c) 2024年と2008年の地形差分。緑色及び黒色の線は(b)と同じ。
- (d) (b)及び(c)に示したブーマー調査測線での反射断面(井上・岡村, 2010を改変)。横幅は、(c)における線の位置と一致しない。